

科目番号	52024	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース	学年		
科目名	助産実践力開発実習 (Development of midwifery Skills)					1		
						配当セスター		
						前期		
担当者	○橋本 美幸、平出美栄子 関屋 伸子、小嶋奈都子 加藤知子	区分	助産師免許取得プログラム	必修	単位	4	時間数	180
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連		
1. 実習目的 生理的な経過をたどる妊産褥婦・新生児への助産ケアについて科学的根拠に基づいて考え、実践できる能力を養う。母子とその家族を継続的・総合的に理解し、個別性を踏まえた助産ケアを実践する能力を養う。健康の保持増進のための健康教育および育児支援の重要性を理解する。これらの実践を通して、助産師の責任と役割を理解する。						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力	
2. 実習目標 1) 対象とのコミュニケーションを通して、対象のニーズ、個別性を理解することができる。 2) 妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産診断ができる。 3) 妊娠、分娩、産褥、新生児の各期の助産計画を科学的根拠に基づいて立案、実施、評価できる。 4) 対象の個別性や優先順位を考慮して助産ケアの実践ができる。 5) 妊娠・分娩・産褥・新生児の各期における母子の健康からの逸脱、異常兆候を予知・予測し、その対応を考え、説明することができる。 6) 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の継続したケアを通して、母子および家族への個別的なケアの必要性、重要性を理解できる。 7) 自分の行った助産過程を振り返り、自己の課題を明確にし、実践につなげることができる。 8) 周産期に必要な保健医療チームとの連携、助産師の責任と役割について考えることができる。						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力	
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力	
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力	
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力	
							6.研究・開発能力	
						○	7.倫理的意思決定能力	
3. 実習時期および実習場所 平成 30 年 1 月 15 日～3月 3 日 (補習期間含む) 医療法人産育会 堀病院 平成 30 年 2 月 5 日～3 月 2 日 国立研究開発法人国立成育医療研究センター 平成 30 年 2 月 5 日～3 月 2 日 国立病院機構埼玉病院 実習は各施設 2 週間ずつの合計 4 週間とする。なお、実習目標を達成できていない場合は、補習実習を行う。								
4. 実習方法 1) 分娩介助実習 正常な経過にあり、かつ今後も正常な経過を辿ると予測される産婦を受け持ち、10 例(助産学基礎実習と合わせて)の分娩介助実習を行う。 2) 短期継続事例実習 直接分娩介助を行ったうち 1 例を短期継続事例とし、分娩期から産褥期・新生児期のアセスメント・助産診助、助産計画立案を行い導き出されたケアや保健指導などを指導者の指導後、自立して行う。 3) 間接介助実習 ベビーキャッチおよび外回りなどの間接介助を 5 例以上行う。 4) 会陰縫合見学実習								
事前・事後学習	事前学習：前期に開講された授業内容を復習しておくこと。 事後学習：自己学習ノートを作成し、実習における学び、理解できたこと・不十分なことをまとめること 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み合わせること。							
評価の方法	実習目標の達成度による評価を行う（実習記録 40%、カンファレンスとレポート 20%、実習状況 40%）。 フィードバックは適宜行う。							
参考図書・資料等	授業で使用したすべての参考図書							
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 履修要件：助産学基礎実習の単位修得							